

2021年7月24日（土） 大菩薩嶺(2057m)、大菩薩峠(1900m)

百名山大菩薩嶺・峠登山は、2013年（平成25年）11月に登って以来ですので、実に8年ぶりの計画となりました。古くは1997年（平成9年）に文ちゃんが、1998年（平成10年）には根岸さんがクマさん会デビュー登山として登っています。未だホームページが開設されていないころのことです。

ホームページ開設以降では2005年（平成17年）に大菩薩嶺のレポートが掲載されていて、雄さん、鶴飼さん、竹内さんが12月の積雪の中を歩いています。

参考までに、直近の2013年の登山には、熊本さん、布目さん、堀さん、白井さんの4人が登っていますが、予定していた能勢さんは歯痛で前夜に良く眠れず、当日朝にドタキャンとなったようです。

今回は決行までに色々ありました。

- ・当初予定は5月でしたが、コロナ感染予防の為の緊急事態宣言が発出され一旦7月9日に変更しました。その時の参加予定者は熊本さん、能勢さん、安部さん、池戸さん、文ちゃん、田上さん、根岸さん、中島さん、吉松の9名。ところが、例年に無いほどの長雨の梅雨に祟られて、再び24日に延期した段階で安部さんが日程があわざに参加出来なくなり、9人の予定が8人の参加見込みとなりました。
- ・そうこうしている内に、一旦は取り消された緊急事態宣言が再び東京に発出されて、ワクチン接種の進んでいない熊本さん、中島さんが用心のために参加辞退
- ・そして残った参加予定者6人全員がワクチン接種も済ませ、満を持して迎えた24日朝、なんと能勢さんから連絡が入って突然のキャンセル。昨晩、玄関の階段を滑り落ちて左踵が痛くて歩けないとのこと。

そんなこんな経緯を経て、24日の登山決行となりました。

能勢さんのキャンセルで、参加者は池戸さん、文ちゃん、田上さん、根岸さん、吉松の5人になりました。塩山駅前でレンタカーを借りて、411号線を走って福ちゃん荘に向いました。福ちゃん荘を出発点として、大菩薩嶺、大菩薩峠を巡って再び山荘に戻る最もポピュラーなコースです。

レポート：吉松





吉松は、ガソリンスタンドの軒先を借りて営業しているというオリックスレンタカーの場所確認をしておきたくて、一足早く8時14分に塩山駅に到着

池戸、高橋、根岸、田上の4氏は、特急あずさ3号で予定通り8時53分に塩山到着



しゃれた塩山駅舎



土、日曜日は塩山駅から大菩薩峠登山口までバスが運行されていて、それを利用する登山者が駅前で列をなしていた。

我々は福ちゃん荘まで一気に登りたいのでレンタカー利用と決めていた。



駅から歩いてすぐのエネオスガソリンスタンドで、5人乗りレンタカー2台を借用

能勢さんが不参加となったのでレンタカーは1台で間に合ったのだが、当日キャンセルをしても仕方が無いので、豪華に2台連ねて移動することにした。

大菩薩ライン（411号線）はガラガラで順調に走行し、途中の大菩薩峠登山口（900m）から林道に入って上日川峠（1580m）に向った。

上日川峠には広くて良く整備された市営駐車場があり、車利用者はほとんどここに駐車

我々は福ちゃん荘（1700m）まで行くことが出来るという熊本さんのアドバイスを聞いていたので、更に狭い林道を走った。歩けば往復1時間ほど掛かるので、我々にとってはもっけの幸いであった。



10時過ぎに福ちゃん荘に到着

ここまで車で来る登山客は少ないらしく、2台分の駐車スペースもしっかりと確保



福ちゃん荘では一寸した思惑違いが発生

福ちゃん荘駐車場利用のためには、福ちゃん荘でコーヒーを全員が注文すれば良いと思っていた。

ところがそうでは無くて、「ほうとう（@1000円）」か「馬刺し（@1500円）」を注文してくれと言う。流石に昼間から馬刺しも無いということになり、やむを得ず下山時に「ほうとう」を食べることにした。

「ほうとう」を注文するに当たっても、何かと決めごとがうるさかった。

まず、何時に食べるか決めてくれと言う。その時間に合せて作って待っているので、絶対に遅れるなども釘を刺された。随分厄介なことだとは思ったが、14時30分に食べる約束をした。

兎も角、「ほうとう」に関して山荘との約束が出来たので出発することにした。



10時15分すぎ、福ちゃん荘を後にして唐松尾根登山道を雷岩に向った。

笹原の中に良く整備された登山道が続き、唐松林を風が通り抜けるので心地よかったです。



11時を過ぎたあたりで視界が広がり、眼下に大菩薩湖を見下ろすことが出来た。

全体に雲がかかっていたこともあって、湖の向こうの富士山まで見晴らすことが出来なかった。



11:20分 雷岩に到着

一寸早いけれど昼食タイム

14時半に「ほうとう」も食べなければならぬので、食べる量は持参の昼食半分くらいにしておいた。



ほとんど読めない標識だが、
左「大菩薩嶺」 右「大菩薩峠」
と書かれている。



11時40分

標識に従って、大菩薩嶺へ向って出発

大菩薩嶺（2057m）まではほんの10分
偶々、2頭の鹿が我々を迎えてくれた。



集合写真を撮った後、来た道を雷岩に戻った。



雷岩まで戻る途中で、再び鹿に遭遇したが、先ほど大菩薩嶺で遭遇した同じ鹿のようだ。



12時

雷岩を後にして大菩薩峠に向った。
既に唐松などの大木は無く、峠に続く道を見下ろしながら歩くことが出来た。
涼しい風が流れた。



15分ほどで神部岩に到着

西暦2000年に立てたという「標高2000メートル地点」の標識が建っていた。

この辺りからの眺めは最高らしい。

2002年（平成14年）には、今上天皇も皇后陛下とご一緒にこの辺りから景色を眺められた。
大菩薩湖の先には三つ峠山を見ることが出来て、遙か先には富士山が望めるそうだ。

今日は雲がかかっているために、残念ながらそれらの景色を楽しむことは出来なかった。



一寸雲が多い。

手前右の林の中には、登り起点となった福ちゃん荘が微かに見えていた。



神部岩から15分ほど下ると・・・



賽の河原に到着

亡くなった子どもが積むと言われる幾つもの石積みがあった。



広辞苑によれば、「賽の河原は、小児が死んでから苦しみを受けるとされる、冥土の三途の河原」とあった。
少々おどろおどろしい場所である。



12時50分 大菩薩峠に到着

*標識では1897m（「山と高原」地図では1900mと記載されている。）

以下の写真は、峠の山荘「介山荘」



閑話休題 1

「介山荘」は小説「大菩薩峠」を書いた作家「中里介山」に由来

この小説は、「机竜之介」を主人公とした長い長い幕末舞台の時代小説で、映画にもなっています。大変有名な小説なのですが、長いだけで無く話が複雑に絡んでいるため中々最後まで読み通すには根気を要します。吉松は2度チャレンジしましたが最後まで読み通すことは出来ませんでした。



介山荘ではかき氷を販売していた。

早速池戸、根岸、田上さんの3氏が舌鼓を打っていた。

かき氷で一息入ったところで、集合写真



今回の登山では余り花に巡り会うことは無かったが、登山道の片隅に咲いていた幾つかを紹介



13時15分、介山荘を後にした。整備されて林道をゆっくり下るだけだ。



13時50分 福ちゃん荘に到着

頼んでいた「ほうとう」は、14時30分に出てくる。40分ほど、のんびり待つことにした。

閑話休題2

古い古い話になりますが・・・

1969年（昭和44年）に当時赤軍派と呼ばれていた革命武装集団が「福ちゃん荘」で武装訓練を行っていました。機動隊の突入で53名のメンバーが現行犯逮捕されたという事件です。半世紀以上も前の事件ですのでほとんど忘れていましたが、今回福ちゃん荘に立ち寄る機会があつて思い出しました。

詳しくは、「大菩薩峠事件」としてウィキペディアに載っています。

閑話休題3

山梨県の郷土料理「ほうとう」・・・

手を掛ける店では、麺を打つところから始めるのだそうです。

味のベースは味噌で、カボチャ、ニンジン、タマネギ、長ネギ、シイタケ、しめじ・・・など沢山の具を長時間煮込んで味をしみこませるのが大切とのこと。

さて、我が「福ちゃん荘」のメニュー表には1時間煮込むと書いてありました。その為、食べる時間に合せてしか調理を始めないのでそうです。登山出発前に食事時間を決めさせて、その時間以外には食べさせないという頑固さが、やっと分かりました。

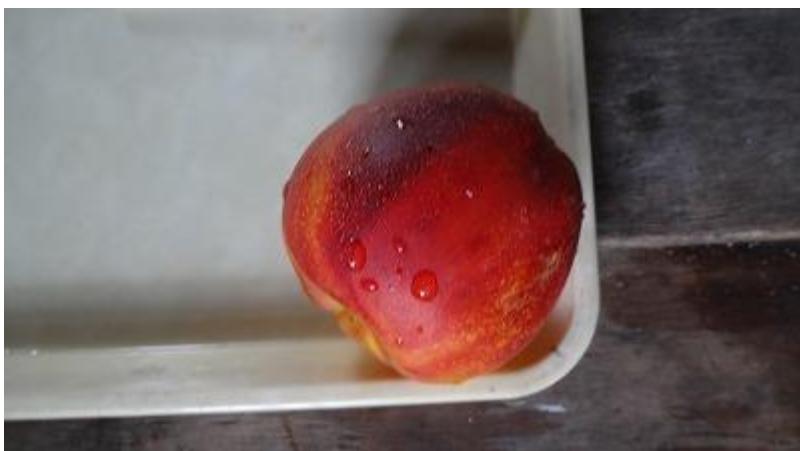


約束通り、14時30分に自家製「ほうとう」が出てきた。

熱すぎず、ぬるすぎず、丁度食べ頃の熱さになっている。

味噌のこくと言い、沢山の具にしみこんだ味加減と言い、申し分ない。

山荘の女将が、とことん食べ時にこだわつていただけはある。



女将が気を回してくれて、「ネクタリン」をサービスしてくれた。

山梨ならではの果物で、これも大変美味しいものであった。



「ほうとう」の旨さに、一気に「福ちゃん荘」の評価が上がってしまった。

「ほうとう」をたらふく食べて、福ちゃん荘を後にした。



←大菩薩の湯 入口

時節柄、入浴客は少なく大広間はがらんとしていた。



入浴を済ませてさっぱりした後、車が順調に流れて 16 時 10 分には塩山駅に到着
その為に、予定よりも大分早い塩山駅 16 時 27 分発の「特急かいじ 40 号」に乗車する事が出来ました。

コロナ禍のために席を向い合わせにして談笑出来ないのが残念でしたが、温泉で飲めなかったビール&アルコールを各自各席で乾杯しながら帰路につきました。

大勢集まつての飲み会自粛のため、お酒好きのメンバーにとっては一寸物足りなかつたかもしませんが、良い汗を流し美味しいものも食べて、全員満足して無事帰宅する事ができました。

【番外編】

* 大汗をかかない池戸さんは久しぶりでした。

タオルの汗を絞っている写真は一枚もありませんでした。

雲がかかった為に気温が余り上がりらず、良い風が吹き抜けてくれた所為かもしません。

* 階段から滑り落ちた能勢さんは気の毒でしたが、痛めた踵は大事には至らなかつたようです。

大菩薩峠登山では、前回は歯痛、今回も踵痛と 2 回連続の直前のキャンセルとなりました。

ご本人は「大菩薩峠は鬼門」とおっしゃっていますが・・・。